

会議要旨

【開催概要】

会 議 名 称	平成29年度 第1回富田林市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成 29 年 11 月 13 日 (月) 15 : 00~16 : 40
開 催 場 所	富田林市役所 3階 庁議室
出 席 委 員 (名簿順表記)	・井上美智子委員 (会長)・開沼委員・恒川委員・中尾委員 (副会長) ・辻野委員・林千香委員・西山委員・井上一世委員・杉分委員 ・岡本委員・岡野委員・吉岡委員・松田委員・北谷委員・林里美委員 (計 15 名)
欠 席 委 員	福田委員、藤岡委員
事 務 局	子育て福祉部：北山部長 こども未来室：青木室長、寺元次長、辻野課長、大岡課長、矢口 教育指導室：西川主幹
会 議 次 第	1. 開会 2. 子育て福祉部長あいさつ 3. 委員および事務局自己紹介 4. 会長および副会長選出 5. 会議の公開および会議記録の作成について 6. 案件 ・富田林市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について 7. その他 8. 閉会
公 開 / 非 公 開	公開
傍 聴 者	0人
そ の 他	なし

【議事要旨】

	<p>1. 開会 (事務局)</p> <p>2. あいさつ (子育て福祉部長)</p> <p>3. 自己紹介 (各委員および事務局)</p> <p>4. 会長および副会長選出 会長⇒井上 美智子委員、副会長⇒中尾委員</p> <p>5. 会議の公開および会議記録の作成について ・会議は、引き続き原則公開とする。 ・会議記録についても、引き続き要旨記録として作成し、市ウェブサイト等で公開する。</p> <p>6. 案件 ・富田林市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について</p>
事務局	<p>●資料3「教育・保育のニーズ量の見込みと提供量に対する実績など」、資料4「地域子ども・子育て支援事業のニーズ量の見込みと提供量に対する実績など」の説明 (説明省略)</p>
会長	<p>◇子ども・子育て支援事業計画は平成27年4月から5か年の計画で、今でちょうど計画期間の半分の中間地点となり、国から計画の中間見直しについての考え方が示されたようだが、事務局の見解を聞きたい。</p>
事務局	<p>●先般、内閣府より「市町村子ども・子育て事業計画等に関する中間年の見直しのための考え方についての手引き」が示され、計画の見直しの基準として、平成28年の支給認定区分ごとの教育・保育の量の見込みと実績値を比較し、10%以上の乖離がある場合は見直しの対象となり、見直しをする場合は、地方版子ども・子育て会議等での議論を経て、各自治体で適切に判断することとなっている。また、これに併せて、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについても、教育・保育の基準に準じて、見直しを行うこととなっている。</p> <p>教育・保育の量の見込みについては、資料3「教育・保育のニーズ量の見込みと提供量に対する実績」の表にある1～3号認定のすべてにおいて、10%以上の乖離はなかった。</p> <p>資料4の地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」については、ほとんどの事業において10%以上乖離していたが、実績に合わせる形で量の見込みを</p>

	見直すということが適切かどうか疑問に思うところである。 以上により、教育・保育の支給認定区分ごとの実績では10%以上の乖離がないことから、事業計画の見直しは必要ないと考えている。
会長	◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。
委員	◇育児ヘルパー事業と養育支援訪問事業とのちがいは。
事務局	●育児ヘルパー事業は、妊娠・出産で一時的に支援が必要な人に家事や育児を支援する事業であり、養育支援訪問事業は6回にわたって訪問し、家事等を自分自身でできるように計画を立てて支援していく事業である。
委員	◇地域子ども・子育て支援事業の実績値については、児童数がどんどん減っている中、児童数で評価するとどうしても数値としては減ってしまい、ニーズがなくなっているようにしか見えない。事業計画の数値は国で決められているので仕方がないが、世帯数や相談件数など市独自で事業の実態が見える実績を出してほしい。
事務局	●ご指摘のとおり、計画に記載している数値は国の基準に基づいているため、このような記載になってしまうが、世帯数など市独自の数値を出すことは可能である。
委員	◇資料4の保育士の訪問事業について、留守宅の訪問も含めることにより、昨年から6倍になったということだが、会えた家庭と留守だった家庭の内訳が分かるようにするべきではないか。
事務局	●手持ちしていないが、内訳は把握しているので、記載について検討する。
委員	◇学童クラブの表を見ると、見込みより実績が増えているが、分割することできちんと対応ができているのか、個々の状況はどうなのか、数字だけでは現場の実態がわからない。
委員	◇現場の声を掲載することは難しいか。
事務局	●事業が幅広いので、すべての事業について詳細に記載することは難しい。見込みの出し方も国から示されたワークシートに基づいており、どうしても本市の実態と差があるものについては過去の実績を用いて独自推計をした。次の計画において独自推計をする際には、十分注意していかないと実績と乖離してしまうことや、計画にない事業を実施した場合にはどのように記載していくかということも含めた検討が必要であると考えている。
会長	◇最終的に見直しか見直さないかは市が判断することになり、事務局の説明からすると今回の中間見直しについては行わないということになるであろうと思うが、それぞれの事業については、計画に沿って引き続き実施または拡充に努めてもらいたい。
事務局	●資料5「その他子育て支援事業等の利用状況」、「富田林市子育て包括支援センター」、「育児ヘルパー事業」、「保育所・幼稚園等保育料の軽減内容」「学童クラブの整備状況、整備予定」、「家庭的保育・特定保育施設（認可保育所）の整備状況など」の説明

	(説明省略)
会長	◇事務局から説明のあった内容について、委員の皆さんの質問や意見をうかがう。
委員	◇育児ヘルパー事業の案内チラシに対象者を「心身の不調等により、家事や育児が困難な家庭」と記載してあるが、本当に体がしんどい時にしか利用できないのか。そうでなければ、チラシの文言をもう少し柔らかくしてはどうか。
委員	◇祖母等と一緒に住んでいると利用できないように思うので、誰と一緒に住んでいても利用できるようにしてもらいたい。
事務局	●国の補助事業であるため、制度上は近くに支援者がいなく、かつ産前・産後の体調不良の方を対象にしているが、祖父母と一緒に住んでいても申請を拒むということはしていない。産前・産後は誰でも体調がすぐれないため、なるべく利用してもらえるように受付では柔軟に対応しているので、チラシ等の広報の表現については改善を検討する。また、妊娠届出の時に積極的に利用申請してらうよう案内している。
事務局	<p>・今後の予定について</p> <p>●本計画期間は31年度までとなっていることから、32年4月を始期とした計画を策定する必要があると思われる。本計画では、計画期間の2年前にニーズ調査を実施しており、それでいくと来年度が2年前に当たることから、ニーズ調査のアンケート項目などの審議に1回、調査結果についての審議に1回、評価・検証のための会議を1回で、計3回程度、夏以降に開催したいと考えている。</p> <p>なお、昨年の会議でお願いしていた「第三次ひとり親家庭自立促進計画」の策定にあたっては、内部で検討した結果、他市において、子ども・子育て支援事業計画書に盛り込んでいるところもあり、本市についても次の計画に盛り込んでいく方向であるため、来年度以降の会議において、併せて審議をお願いしたい。</p> <p>また、他の部署になるが、現在、平成30年度から32年度の3年間を計画期間とした、第1期富田林市障がい児福祉計画を策定中であり、子ども・子育て支援事業計画と整合性を図るため、次の計画には、障がい児に関するニーズ等の記述が必要となってくることが予想される。</p> <p>以上、よろしく願います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>